



SPECIAL
FEATURE

特集

地域とともに

- ・阿蘇プロジェクト
- ・寄郎屋
- ・ことばの相談室
- ・からだのふしぎ探検

CONTENTS

- 2~5 特集・地域とともに
- 6~7 News & Topics
- 8~9 実習体験レポート、研究ノート
- 10 OB・OG就職活動ルポ
- 11 国際交流・クラブサークル紹介・Library
- 12 コラム・基本理念・教育目標・熊保大夢基金

地域とともに

社会にとって有為な医療人材を育てる過程においては、地域との連携が欠かせません。本学では、研究、教育の両面において地域の人々を巻き込んださまざまな取り組みを行っています。老若男女を問わない地域の人々との二人三脚が教員の研究心、向上心を高めるとともに、学生たちの中に医療人としての「心」の芽生えを促しています。

阿蘇プロジェクト 大学生と高校生がタッグ「健康寿命を延ばせ」 世代超えた触れ合いが地域の活力に



「住民の健康寿命を延ばす」という合言葉のもとに本学が阿蘇市と阿蘇中央高校との三者連携で取り組んでいるのが「阿蘇プロジェクト」です。市役所職員と大学生、高校生たちが役割を分担し、阿蘇市民に対する健康・体力チェックや声掛けなどに取り組んでいます。

プロジェクトは、三者間で2023年2月に締結した健康寿命の延伸に関する包括連携協定を機に、同年6月から取り組んでいます。毎年6月と11月の2回、測定会を実施。市の呼び掛けに応じた阿蘇市民を対象に「運動」「食事」「社会参加」の3テーマに基づいて歩行速度、摂食嚥下機能、骨密度など約30項目に及ぶ体力測定や質問紙による聞き取りを行っています。会場となる阿蘇中央高校では、事前に本学で研修を受けた同校生徒と本学

学生がチームを組み、測定を一手に引き受けます。

1回目の測定会から次の測定会までの5カ月の間には、健康生活への意識づけのため、高校生、大学生らが参加者に定期的に電話をかけ、暮らしぶりなどを聞きとる取り組みも。日頃触れ合うことのない若い世代との日常的な交流は、参加者にも喜ばれています。

年明けの1月には、年間を通じた取り組みの締めくくりとなる報告会も実施しています。参加者も含めた関係者を前に、市職員、本学教員、高校生がそれぞれの立場から取り組みの結果を報告。プロジェクトリーダーの松原慶吾准教授によると、過去2年間の取り組みを通じ「参加者の行動を『予防活動を取り入れた行動』へと変容するために必要となる『予防意識』を高める取り組みとして有用であ



る」という結果が出ているということです。

プロジェクトでは今後、阿蘇市民のさらなる心身機能の維持向上を目指し、これまでの取り組みに加えて、参加者への運動指導および口腔機能の低下への対応も含めて取り組んでいく予定です。



住民の健康チェック…地域イベントは実践の場

地域で行われるイベントは、学生たちが日ごろの学びを実践に移す格好の場となっています。

毎年春、隣接する食のテーマパーク・フードパル熊本で開催される「フードパルフェスタ」では、フリーマーケットやステージイベントが繰り広げられるにぎやかな会場の一角で、リハビリテーション学科の教員と学生が訪れた人たちの体成分や骨密度を測定し、測定後のアドバイスを行っています。また、毎年秋に開かれる「ふれあいフェスタ in ほくぶ」では、医学検査学科と看護学科の学生たちが各種測定具を使って住民の健康チェック。学生たちとの和やかな会話も訪れた人たちに喜ばれています。





高齢者の孤独・孤立を防ぎたい一。そんな思いを胸に、松尾崇史准教授(リハビリテーション学科生活機能療法学専攻)らのグループが2023年11月、水上村湯山地区で立ち上げたのが、日本初のコミュニティ・シェッド「寄郎屋(よろうや)」です。

コミュニティ・シェッドとは、高齢者のための居場所のこと。1990年代にオーストラリアで生まれ、世界中に広がっています。そこでは、現役を退いた人たちが集い、生きがいや、やりがい、楽しみを求めてさまざまな活動に取り組んでいます。日本では中高年層の男性で社会的孤立のリスクが高いため、寄郎屋もシニア男性向けの「メンズ・シェッド」としてスタート。松尾准教授らは、科学技術振興機構 社会技術研究開発センターの支援を受け、その効果を検証しています。

寄郎屋は週1回の頻度で活動しています。その内容は、木工、炭焼き、そば作り、釣りなど多彩です。何をやるかは参加者が主体的に決めていきま

す。地域イベントにも積極的に参加し、若い年齢層との交流も活発です。現在、寄郎屋の活動には16人が参加しています。

「大人の秘密基地、ともいうべき湯山地区の事務所を拠点に、人口2千人にも満たない高齢化率45%の水上村にあって、活動の幅を広げていく予定です。シェッド活動は様々な活動・作業を共にする中で新しい繋がりを作り、生きがいを見出し健康と幸福感を高める目的があります。実際に寄郎屋でも、メンバーは皆、淡々と作業を始め、作業が終わると事務所に戻り、コーヒーを片手に語り合っています。ただそこに居るだけの方もいます。帰る方もいます。そんな自由度が高く、誰でも気軽に集まれ、互いを認め合い受け入れる場所。何かあってもすぐに全て丸く収まる。このように、寄郎屋は、社会で活躍してきたシニア男性達の多くの経験で培われた懐の深さのようなものを感じることができる場所となっています。



水上村で「子育て支援事業」

本学と水上村は、村が進めるアスリート支援事業や地方創生、健康寿命の延伸をはじめとした住民の健康づくり等に関する包括連携協定を締結し、相互連携のもとさまざまな事業に取り組んでいます。そのうちのひとつ、「水上村子育て支援事業」は2022年5月にスタートし、健康・スポーツ教育研究センターの益満美寿准教授と学生が、「子育て相談&育児講座」や親子を対象にした「感覚運動あそび教室」などを定期的開催しています。

「子育て相談&育児講座」は、村内2カ所の保育所に通う乳幼児の保護者が対象。各保育所で年1回開いており、講演とフリーディスカッションの2部構成となっています。特にフリーディスカッションでは、実際の生活場面における褒め方や叱り方についてなど、日ご

ろ保護者が抱えている育児不安やストレスについて多くの質問や個別相談にこたえています。

一方、夏季休暇期間中に数回開く「感覚運動あそび教室」には、毎年、リハビリテーション学科の学生たちもボランティア活動と小児発達領域の体験学習を兼ねて参加し、幼児たちと触れ合いの機会を持っています。2024年は21人の学生が参加。発達支援テーマを「眼球運動」「視知覚」「バランス感覚」「ボディイメージ」「協調運動」の5つとし、テーマ要素を含む10種目の感覚運動あそびを提供し、子どもたちにチャレンジしてもらいました。

日ごろ幼児期の子どもたちと遊ぶ機会がほとんどない学生たちにとって、「教室」は子

どもたちと楽しく交流でき、小児発達支援の体験学習としても有意義な場となっていました。子どもたちも集中して楽しんでくれ、帰り際に学生たちの姿が見えなくなるまで手を振ってお見送りをしてくれた姿が印象的でした。



ことばの相談室

言語発達の遅れた子どもを優しく支援
保育園や小学校と連携、個別指導も



リハビリテーション学科言語聴覚学専攻には、言語発達臨床教育研究室(通称「ことばの相談室」)という部署があります。2018年に設置され、地域に住む言語発達が気になる子どもや保護者からの相談を受けたり支援を行ったりしています。その仕事は、大きく分けて3つあります。

① 子どもたちの個別指導

ことばの遅れ、吃音、発達障害、発音が気になる、学習についていけない、などで困っている子どもたちを支援しています。学内に設けた個別支援室は、広く明るくポップな内装で、訪れる子どもたちにも好評です。

② 地域の保育園や小学校との連携

地域の保育園・幼稚園や小学校にはことばの発達について気になる子どもたちが在籍しています。相談室では保育士や先生方からの相談を聞き、先生方と連携して子どもたちの発達を見守っています。

③ 将来の発達支援を担う学生の育成

言語聴覚学専攻の学生の卒業後の就職先は多岐にわたります。子どもの発達支援も言語聴覚士の仕事のひとつです。「将来、子どもの支援をしたい」と考えている学生たちが活躍できる場所を作っています。学生たちは、個別指導のために来所した子どもたちのために、指導教材を作り、親身になって指導にあたっています。その姿は、とても頼もしいです。

障害があってもなくてもこの地域で暮らすことができたと、子どもにも保護者にも感じてもらえるように、地域に貢献できる相談室を作っていきたいと、スタッフ一同考えています。



地域の財産を守れ 井芹川&西里駅清掃

本学は田園と豊かな自然に囲まれた熊本市北部の西里地区に立地しています。キャンパスの東側を流れる井芹川は、地域住民の生活道路であり散歩コースにもなっています。また、隣接する JR 西里駅は学生だけでなく住民にとっても大切な交通拠点。地域とともにこれらの大切な“財産”を守っています。

毎年11月には、校区挙げての「井芹川流域大清掃」が実施されます。年1回の一大クリーン作戦。主催の西里まちづくり委員会に全面協力し、学生・教職員も河岸道路や土手などの雑草刈りやごみ拾い、花壇の整備などに汗を流しています。

一方、西里駅では、校友会が毎月1回の清掃活動を続けています。多い時には100人を超える参加者もあり、若い力で駅舎や周辺の美化活動に汗を流しています。

西里駅は2024年12月に開設70周年を迎えました。本学の竹屋元裕学長が名誉駅長を務めており、これからも地域住民と共に守っていきます。



からだのふしぎ探検

触れて、見て、楽しく学んで興味倍增
小中学生に人気 夏休みの一大イベントに



小中学生にヒトの体の仕組みや医療関係の仕事などを学び体験してもらう「からだのふしぎ探検」。地域の子どもたちを対象に、医療の仕事を理解してもらおうと2022年に始めたものですが、その人気ぶりから2年目以降は熊本市全体の小中学生を対象を拡大。毎回、事前募集の段階から申し込みが殺到する人気ぶりで、早くも夏休みの一大イベントとなっています。

学内に設けられた約20のブースは、「医学検査」「リハビリテーション」「解剖、看護・助産、アカデミックスキル支援センターエリア」の3エリアに分けられ、各学科・専攻・別科によるアイデアを凝らしたイベントが目白押し。ブースによっては順番待ちの行列ができるほどの盛況ぶりです。

医学検査エリアは顕微鏡を使った細胞観察や血液型検査などの体験型が主。簡易の白衣に身を包んだ子どもたちが学生たちの

手ほどきを受けながらの真剣な表情が印象的です。「リハビリテーション」エリアでは、リハビリテーション学科の3専攻（理学療法学、生活機能療法学、言語聴覚学）が、遊具や自助具を使ったゲーム形式の体験プログラムや各種測定などでお出迎え。どのブースも子どもたちの歓声が絶えません。

一方、「解剖、看護・助産、アカデミックスキル支援センターエリア」で人気なのは、妊娠・出産をテーマにしたブース。子どもたちは胎児モデルでおなかの中での赤ちゃんの成長をたどったり、実際に新生児モデルを抱っこするなどして、気分はお父さん、お母さん。このほか、同エリアでは学部生によるコミカルな寸劇・動画の上演（「からだのふしぎ小劇場」）や骨格模型、臓器模型の展示などもあり、あの手この手で子どもたちの好奇心を呼び起こしています。



スポーツ通じさわやかな汗 語らいの時



グラウンドゴルフや健康ウォークを通じた住民との触れ合い。校区主催のスポーツイベントにも本学は積極的にかかわっています。毎年春と秋の2回、本学グラウンドで開催されているのが、西里校区グラウンドゴルフ大会です。校区グラウンドゴルフ協会の会員たちに混じって学生や教職員もクラブを握ってナイスショット。

一方、本学をスタート・ゴールに毎年3月に開催されているのが西里校区健康ウォーキング大会。6.2kmと3kmの2コースの途中には、地域にまつわるクイズコーナーも設けられ、正解者には抽選で賞品も。スタート前とゴール後は、看護学科の学生たちが参加者の血圧を測定したり、リハビリテーション学科の教員が健康体操を手ほどきしたりするなど、地域の健康づくりにかかわっています。



News & Topics

杏祭

雨二モ負ケズ…今この瞬間を楽しめ

第48回杏祭が令和6年10月18日(金)、19日(土)の2日間、アリーナをメイン会場に開かれました。今年のスローガンは「TOBEREAL ～今この瞬間を楽しめ～」。

本祭にあたる19日のステージは、最強チーム決定戦と力自慢コンテストで開幕し、シンガーソングライター富岡愛さんのアーティストライブで最高潮に。スペシャルライブとして、竹屋元裕学長と南部雅美教授が白と黒のスーツ姿で登場し、息の合った優雅な演奏を披露しました。隣接するバザー会場には15の模擬店が出店し、2号館では文化展も開催。夜になると900発を超える花火が打ち上げられ、祭りのフィナーレを飾りました。



圧巻! 4時間ライブ

本祭に先立ち18日に開かれた前祭では華やかなステージが繰り広げられました。

トップバッターは吹奏楽部。鮮やかな照明に包まれながらジブリメドレーを披露してくれました。凄まじい盛り上がりを見せたのは、ダンスサークルmimic(ミミック)によるダンスパフォーマンス。最後の軽音部の発表では演奏中は規制線が取り払われ、さながら野外フェスのような盛り上がりの中、8バンドが登場しました。約4時間にわたる前祭ステージは、興奮のうちに幕を閉じました。



日本臨床検査学教育学会学術大会 西島さん(医学検査学科4年)優秀発表賞

第18回日本臨床検査学教育学会学術大会が令和6年8月23日(金)～24日(土)、新潟大学医学部保健学科で開催され、上妻SGに所属する医学検査学科4年の西島朋香さん(共同演者:石本凌大さん、稲嶺沙妃さん、奥村尚優さん)の「体外循環時に生じる人工肺入口圧上昇および人工肺内血栓形成を防止するための基礎的検討」と題した口頭発表が、優秀発表賞を受賞しました。

演題は、卒業研究で取り組んだテーマです。西島さんは、「(受賞は)とても光栄です。予想した結果にならず苦労することが多く、試行錯誤を繰り返しながら研究を行いました。うまくいかずに悔しい思いもしましたが、このような賞をいただくことができ、皆で頑張った良かったです」と喜びを語ってくれました。

一方、受賞こそ逃しましたが、「輸血検査への応用を目指したヒト単球系白血球細胞株を用いた単球貪食試験の改良」という演題で発表を行った上妻SGの川田空輝さん(共同演者:上野佑さん、古賀俊亮さん)は、「緊張しましたが、楽しんで発表することができました。終了後に、先生から労いの言葉をかけていただいたときにはこれまでにない達成感を感じました。指導してくださった先生方や大学院の先輩方に感謝すると共に、学会で学んだことを今後の臨床や研究に活かしていきたいと思っています」と話していました。



D-FOOT INTERNATIONAL

次山さん(大学院リハビリテーション領域2年)最優秀論文賞

インド・ムンバイで令和6年9月27日～29日に開催された「第2回 D-FOOT INTERNATIONAL」で、本学大学院(リハビリテーション領域)2年生の次山航平さんが最優秀論文賞に輝きました。

次山さんは、理学療法士として臨床で得た着想をもとに、「糖尿病足病変に対する早期予防法の一つである治療用サンダルの効果」をテーマに発表しました。発表の場では最高のパフォーマンスを発揮することができ、見事に「Best Paper Award」を受賞しました。

この成果は次山さん本人の努力の結果であると同時に、急速に経済発展を遂げる南アジア地域において、糖尿病足病変が深刻化している状況も背景にあるのではないのでしょうか。近年では、手術や薬物療法に加え、装具療法の有効性をバイオメカニクスの手法で検証することが注目されているとのこと。

次山さんは、「学会に参加させていただいたことに加え、このような賞をいただけたことは非常に光栄です。この成果に満足せず、糖尿病足病変に関する研究をさらに継続していきたい」と意欲を見せていました。次山さんは今回の発表内容をさらに発展させて修士論文に取り組む予定です。



インカレ壮行会

インカレ九州大会の壮行会が令和6年6月26日(水)、50周年記念館でありました。大会に出場するバレーボール女子、サッカー男子、フットサル男子の計43人の選手が紹介されました。竹屋元裕学長が「日頃の練習の成果を発揮してほしい。健闘を祈ります」、内田拓斗学友会会長(リハビリテーション学科理学療法専攻3年)が「これまでのがんばりを大会にぶつけ、悔いのない大会にしてください」と、それぞれ激励しました。

選手を代表してバレーボール部の小松杏寧さん(看護学科1年)が力強く選手宣誓しました。



オープンキャンパス

オープンキャンパスが令和6年7月14日(日)、8月18日(日)の2回開催され、合計で2137人が参加。特に8月の参加者は1461人で、これまで最多だった令和元年8月の1069人から大幅に人数を伸ばしました。模擬実習では、各学科・専攻が工夫を凝らした実験や測定、実技など体験型のコーナーが目白押し。学生たちの手ほどきを受けながら、実際に実験器具や診察器具を使ったり、診断用ゲームや各種体力測定を経験したりしていました。



データサイエンティスト育成プログラム認定

本学の「熊保大 保健医療データサイエンティスト育成プログラム(リテラシーレベル、応用基礎レベル)」が令和6年8月27日(火)付で、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度によるプログラムとして文部科学大臣から認定されました。9月1日時点で、熊本県下では、本学のほか熊本大学、崇城大学、九州ルーテル学院大学、熊本高等専門学校の4校が認定を受けています。このうちリテラシーレベルと応用基礎レベルの両方で認定を受けているのは熊本大学、崇城大学と本学のみです。

公衆衛生看護学専攻科を認可 九州内の大学初

文部科学省に申請していた公衆衛生看護学専攻科の開設が令和6年8月30日付で認可されました。同専攻科は令和7年4月に開講。保健師養成を目的とした専攻科の設置は、九州エリアの大学では初めてです。新専攻科は、看護師免許の取得者(見込み者含む)で、大学を卒業(あるいは卒業見込み)した人などが対象。修業年限は1年で、定員は20人。保健師としての高度な専門知識と実践力を持って地域の健康増進に寄与するとともに、将来、リーダーシップを発揮できる人材の養成を目指します。

熊本市の「こども・学生ボランティア助成事業」 本学2団体の活動採択

熊本市の令和6年度こども・学生ボランティア助成に本学関係2団体の取り組みが選ばれました。「Loversコミュニケーション支援ワーキンググループ」による難病児者とその家族に対する孤独・孤立解消のためのリモート交流支援と、「チームぎんなん〜笑顔の輪を作る会〜」による「タイムスリップ!!熊本を知りたいモン!」と題した取り組みです。

Loversワーキンググループは、難病団体との交流会や総会でのコミュニケーション活動や総会等でのハンドベルの演奏、パソコン・タブレットを使用した交流会支援を企画。言語聴覚学専攻の2年次生十数人で結成されたチームぎんなんは、ちょんかけごまなど熊本の伝承遊びや地域の探検マップづくりなどを通し、子どもからお年寄りまで年代を超えた交流を計画しました。



中学校で薬物乱用防止教室 看護学科4年次生

看護学科4年生21人が令和6年7月12日(金)、熊本市北区の北部中学校で薬物乱用防止教室を実施しました。「喫煙」「飲酒」「薬物」の健康への影響や、誘われた時の対処方法を、説明や実演を通して伝えました。

講話を受けた北部中学校の1年生は、「タバコを吸うか吸わないかで、顔などの見た目や印象、体の中も変わる。将来健康で生き生きとした姿でいたいので、私は絶対に吸いたくないと思った。大切な人にこそ健康でいてほしいので、今日の講話で習った断り方や止め方を生かしていきたい」と感想を述べていました。



西里駅70周年記念式典

本学に隣接するJR西里駅が開業70周年を迎え、令和6年12月10日(火)に記念式典が開催されました。

上熊本駅の東浩二駅長が「今年で開業70周年を迎えた西里駅は、今も1日あたり約1800人の方にご利用いただいております。76%は学生の皆さんです。これまで駅の発展に携わった全ての人に感謝を伝えたい」と挨拶。西里駅の名誉駅長でもある竹屋元裕学長が「これからも地域に根ざした、愛される駅として在り続けられるよう、皆さんと一緒に守っていききたい」と挨拶しました。

その後本学の吹奏楽部が、駅に植えられている花にちなんで「花は咲く」を演奏。くす玉が割られると拍手が沸き起こっていました。



「ピリア」にアートポリス推進賞選賞 開放的造り 本学の新たな顔に

本学レストラン「ピリア」が、県内の優れた建築物を表彰する第28回くまもとアートポリス推進賞の「推進賞選賞」に選ばれました。新レストランは学生数の増加に伴う収容能力不足を解消するため旧アリーナを改装したもので、建物自体が正門近くに位置していることもあり、本学の新たな「顔」としても親しまれています。令和7年1月23日(木)に、熊本市中央区の熊本テルサで行われた表彰式では、木下統晴理事長が出席し、亀崎直隆副知事から表彰状が手渡されました。





実習体験レポート

1年次から4年次まで、実践レベルの技術や知識を習得するために、段階をふんだ実習があります。学科専攻によって内容は異なり、実際に現場での実習を体験することで、自分の将来を具体的にイメージすることができます。今回は6人の学生の実習体験を紹介します。実習を通して学んだことや感じたこと、実習中の気分転換の方法から後輩の皆さんへのアドバイスまで幅広く答えていただきました。

①実習を通して学んだこと ②実習中の気分転換 ③後輩へのアドバイス

学んで見えた今後の課題

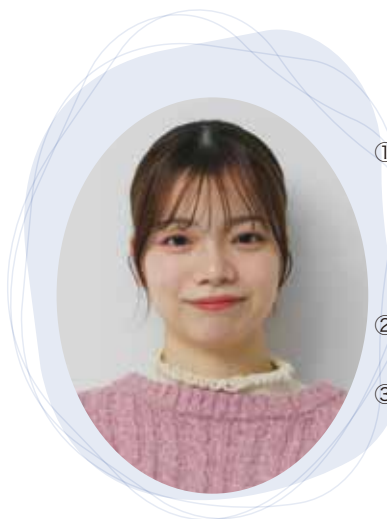
医学検査学科 3年
永田 里奈さん



- ① 実際の臨床現場において、検体検査や生理検査だけではなく、こういった症状があるのかなど患者情報を総合的に判断して検査を実施し、報告するまでの一連の流れがとても重要であるということを学修しました。また、実際に業務の一部を体験させていただく場面でも、社会人としての立ち振る舞い方を同時に学修することができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。その中で、自分自身が知りたい内容等を先生方に端的に伝えることがあまり出来なかったことなど、今後の課題も見つけることが出来ました。
- ② 家族や友人とショッピングを満喫したり、新しい趣味を始めてみるなどをして気分転換していました。
- ③ 大学の講義・実習とは異なり、実際の臨床現場における検査方法や報告の仕方、患者様とのかかわり方から社会人としての心構えなど、実習先でしか学べないことが豊富にあります。そのため、ただ話を聞いてメモを取るだけではなく、視覚からの情報も是非有効的に活用してみてください。きっとすばらしい発見があると思います。

思いに気づいて寄り添う

看護学科 3年
竹内 若奈さん



- ① 私は実習を通して「患者様に寄り添う」ということは細やかな気づきから始まるということを知りました。私が出会った患者様の多くは罹患や入院生活というストレスを抱えていながらも、家族や医療従事者を気遣う気持ちから自分の思いを言えずにいました。そのような中で看護職者に求められることは身体のケアを行いながら、患者様の思いや気持ちに気づき、代弁し、声をかけて支援することだと学びました。気づくことで患者様の思いに少しでも寄り添うことができると考えています。
- ② 実習中は友達と話したりご飯を食べに行ったりして気分転換をしていました。また家でNetflixをみてゆっくり過ごしていました。
- ③ 実習への不安はとても大きいと思います。しかし同じように頑張る仲間と支え合いながら進めていくので必ず乗り切れますよ。実習は長いようで短く、多くのやりがいや学びが得られます！大変だと思いますが頑張ってください！

積極的に質問&伝えよう

リハビリテーション学科
理学療法学専攻 3年
片村 花梨さん



- ① 臨床実習では患者様の評価から治療プログラム立案、介入までを任せさせていただきました。実際に患者様に行うのは学校での友達との練習のようにうまくいかないことが沢山あり苦戦しました。そんな中、指導者の先生が体験や練習をする場を設けてくださり、自分の不安が患者様に伝わってしまうため自信を持つことが何よりも患者様との信頼関係につながると感じました。また同じ疾患でも一人一人の症状や目標が異なってくるため患者様の背景を含めた現在の問題点を理解して患者様に合ったリハビリを提供することが大切であると学びました。
- ② 休日に友人と会ったり、カフェで勉強したりと毎週モチベーションを作っていました。
- ③ 緊張や不安が大きいと思いますが、実習中に疑問に思ったことは積極的に質問し自分の意見を伝えて学びを深めてください。関連図などを用いて自分の整理がしやすい方法を見つけることが大事です。友達も頑張っていると思うと自分も頑張れるので体調には気を付けて実習を楽しんでください！

患者様らしさを大切に

リハビリテーション学科
生活機能療法学専攻 3年
浦上 菜月さん

- ① 実習で実際に評価、プログラム立案、実施、再評価までをさせていただく中で、患者様の退院後を見据えた介入を行うには、患者様の生活の様子をどれだけイメージ出来るのかが大切になってくるという事を学ばせていただきました。また、介入を行う際は、その患者様らしさを大切にすること、リスク管理を徹底することが非常に重要であるということを実際に患者様とコミュニケーションを取りながら介入する中で実感しました。
- ② 実習中は、自分の好きな事をしたり、共に実習を頑張っている仲間とビデオ通話をしたりすることで気分転換をしていました。
- ③ 実習先に行き、慣れるまでが大変だと思います。しかし、実際の現場で活躍されている作業療法士、その他医療従事者の皆さんの様子を拝見させていただく中で、大学の教科書などでは学ぶことの出来ない多くの気づき、学び、楽しさに出会えるはずです。体を壊さないように頑張ってください。

笑顔忘れずに！

リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻 3年
松崎 紗奈さん

- ① 今回、私が実習で学んだことはコミュニケーション能力の重要性です。知識も大事だと思いますが、まずはスタッフとのコミュニケーションはもちろんの事、患者様と接する際に臨機応変に対応することが大切だと感じました。実際にそれぞれ、疾患が異なる患者様と接することで一人一人会話の仕方を工夫しました。患者様とお話しをしていく上で、患者様がこちらに興味を持ってもらえるととても嬉しかったです。
- ② 人混みの多いところはなるべく避けていたので、近くの公園へお散歩などしていました！外の空気吸うの大事です！
- ③ とにかく「笑顔忘れずに」です！実習中はとても緊張すると思いますが、顔色が暗いと患者様に不安感を与えてしまいます。また、スタッフの方にも笑顔で挨拶、感謝の言葉を忘れずに積極的にコミュニケーションを図っていけばより良い実習になると思います！頑張ってください。

同じ志を持つ仲間と楽しんで

助産別科
廣田 千尋さん

- ① 分娩介助実習では、講義で学んだ知識を実践に活かし、刻々と変化する分娩の進行状況を的確に評価し、その後の経過を予測しながらケアを行う難しさと重要性を実感しました。また、母子とその家族の望む支援に繋げるためには、妊娠期からの継続的な関わりやコミュニケーション力が欠かせないことも学びました。実習を通して、助産師さんの質の高い助産ケアを実際に目の当たりにし、助産師としての志が一層強まりました。
- ② 実習のメンバーと話したり、睡眠を十分にとり美味しいご飯を食べたりしてリフレッシュしていました。
- ③ 助産別科は1年と限られた時間で学ぶことが多く、忙しいですが、1つ1つ目の前のことに集中して取り組み、何よりも同じ志を持った仲間と共に頑張った経験が自身の成長にも繋がっています。新生活で不安なこともたくさんあると思いますが、一人で抱え込みすぎず、体調に気をつけて思いっきり学生生活を楽しんでください。

研究ノート

若年勤労者の「食」に関する価値観の研究

本学を第1期生で卒業後、地元の医師会で保健師として働く中で「もっと人々の価値観に寄り添った支援をしたい」と強く思うようになり、そのためにはまだまだ自身のスキルも学びも十分ではないと感じるようになりました。そのようなときに本学の大学院のことを知り、進学を決めました。

現代の日本における健康課題は多様化しており、健康格差も助長しています。そのような中で、「健康観」は個々によって様々であることは明らかですが、人々の内的要因（価値観や知識など）を理解することが重要だと思います。40歳以上の特定保健指導対象となる前段階の若い世代からの支援も大切で、特に豊食の時代のなかで「食」に関する支援は必要不可欠です。地域における健康課題を明らかにし、その原因・要因は何かを追求することで心身共に「健康」に生活できるような社会づくりの一役を担えたらと思い研究に取り組んでいます。

大学院 保健科学研究科
看護領域 1年

辻 友里さん

活躍する先輩たちのリアルな声が聞ける！

KHSU

OB・OG

就職活動ルポ



①在学中意識してやっていたこと ②就職活動中のことや、後輩へのアドバイス



2024年3月卒業（医学検査学科）

渡邊 顕士 さん

臨床検査技師
鹿児島県立大島病院

自分の将来像を思い描いて

- ①大学生活では人間関係の構築に力を入れました。入学時は友達ができるか不安でしたが、サークルやイベントに積極的に参加することで友達が増えました。楽しい思い出をたくさん作り、より充実した大学生活を過ごすことができました。卒業後も連絡を取って近況報告や相談をするなど、大学の友人は私の心の支えになっています。
- ②できるだけ早く取り組み、情報収集をして自分が将来どのように働きたいかを決める事です。実際に私自身、就活中に思い描いていた将来の自分がほとんどそのまま現実になっています。ぜひ自分の将来像をできるだけリアルに想像して今の自分に何が必要かを考えてみてください。



2024年3月卒業（リハビリテーション学科生活機能療法学専攻）

廣田 健人 さん

作業療法士
くまもと南部広域病院

就職活動・国家試験は団体戦

- ①実習や就職活動の期間は、自分の興味のある分野は何か、将来どんなリハビリをしたいか考えながら取り組みました。また、臨床で勤務されている方には学習面以外も積極的に質問し、自分の目指すセラピスト像やプライベートでの目標を構築しました。
- ②就職活動や国家試験は友人や先生方との団体戦です。熊保には就職・実習支援課という手厚いサポートがあります。就職・実習支援課を有効活用し、苦しい事の方が多い国家試験対策の期間を友人と協力して乗り越えて下さい。今臨床で働けているのは、大学時代の友人がいたからだとても感謝しています。



2024年3月卒業（看護学科）

清水 結友 さん

看護師
済生会熊本病院

わからないことをそのままにしない

- ①講義の中でその日に学んだことは、その日のうちに理解しておくことを意識していたため、分からなかったことは友人や講義後に先生に質問に行ったりしていました。日頃の講義でその都度理解し終えることで、テスト前でも課題やアルバイトとの両立に余裕を持つことができていたと思います。
- ②一番力を入れていたことは自己分析です。自分に合った病院や部署の選択時、エントリーシート記載、面接・SPI性格診断試験時など、様々な場面で自己分析は役立ちました。また、医療職は常に人を相手にする職業であることを入職後に実感しているので、学生時代に沢山の年代の方々と関わる経験をして、コミュニケーション能力を培っておくと就職後にきっと役立つと思います。



2024年3月卒業（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻）

糸山 千尋 さん

言語聴覚士
西日本病院

周りのみんなに頼って息抜きを

- ①学生の頃は、時間を経験に費やそうと心がけていました。学業だけでなく、友人との交流を広げ、ボランティア活動、アルバイトでの経験などあらゆる活動に参加しました。その時に得た感情は、忘れないよう日記やポートフォリオに残していました。
- ②私自身、就職活動中に悩み苦しんだ時期がありました。国家試験の勉強と並行して進めていく中で、就職活動はハードなことだったように思います。時には自分の望む結果が得られないこともあるかもしれません。就職活動中はぜひ、友人や先生方、家族を頼って息抜きになるような時間を設けてください。みなさんの就職活動がより良いものになるよう願っています。



2024年3月卒業（リハビリテーション学科理学療法学専攻）

三次 恭平 さん

理学療法士
杉村病院

自己分析で分かった強みと弱み

- ①大学在学中には、学業と並行して県内では珍しいマウスを用いた研究や車椅子バスケットボールチームの練習に積極的に参加し、自己PRや志望動機を考えました。また、自己分析を通じて自身の強みと弱みを把握、それに基づき理学療法士と合わせ取得したい資格を見つけるなどキャリアプランを作成しました。
- ②就職活動と聞くと、自己分析や面接の練習、さらに言ってしまうとどの就職試験を受験するかなど、考える事が多くて気疲れしてしまいます。そんな時でも根気強く、「少しだけ頑張ってみよう」くらいの心持ちで前を向いてください！周りの人が絶対助けてくれます。就職活動が大の苦手だった僕からのアドバイスです。



2024年3月卒業（助産別科）

古川 朋花 さん

助産師
慈恵病院

自分と向き合い、分析を

- ①専門知識だけでなく、ボランティアやサークル等、学内外の様々な活動や人と積極的に関わるようにしていました。それにより多様な価値観を知り、自分の視野を広げることができました。また自己理解も深める機会となり、自分の得意分野を活かせるようになりました。
- ②自分と向き合い、分析することから始めると良いと思います。それにより就職先を探す上で大事にしたいことが見え、面接での想定外の質問にも応用しやすいと思います。また不安や分からないことが増えていく中で、就職・実習支援課や先生、友人の存在が励みになりました。

タイ・コンケン大学交換研修生が来学

日本の文化も学んだ2週間
ラストはダンスで盛り上げる

コンケン大学の学生ら7人が来学し、令和6年6月3日(月)ウェルカムパーティーが開催されました。パーティーでは、コンケン大生らが拍手で迎えられながら入場し、「こんにちは、皆さん」など一人一人が自己紹介。竹屋学長が「2週間の研修期間中、病院施設の見学や授業参加もあるが、友情も育んでほしい」と歓迎の言葉を述べ、「チャイヨー」とタイ式の乾杯の音頭で歓談に入りました。期間中、熊本医療センターやKMバイオロジクスなど5施設を見学し、本学では各学科の講義や実習などに参加。本学の学生と「おにぎり」や「折り紙」など日本ならではの体験も行いました。14日(金)のさよならパーティーとプレゼン発表では、研修生たちが2週間の研修を振り返りました。最後にコンケン大学伝統のダンスを披露し、会場を沸かせました。



ダンスで会場を沸かせる学生たち

大邱保健大学 交換研修生来学

ともに汗を流したボランティア
2週間の学びを全員でプレゼン

大邱保健大学からの交換研修生8人が令和6年7月2日(火)に本学入りし、ウェルカムパーティーで交流を深めました。期間中、学友会の呼び掛けによるJR西里駅清掃が行われ、研修生たちも約2週間の研修の締めくくりとして参加。「帰る前に熊本大の学生と一緒にボランティア活動に参加し、良い思い出を作りたい」と、本学学生たちと汗を流しました。また12日(金)に開催されたさよならパーティーでは全員がプレゼン発表に立ち、各学科の講義や病院見学、クラブ活動、韓国と日本の違いなど、日本語を交えながら2週間の研修を振り返りました。パーティーに参加した渡辺学部長は、「発表は皆さん見事な日本語で、大変感心しました。本学学生との交流が今後も続いていくことを願っています」と話していました。



清掃活動に参加した交換研修生たち

クラブサークル紹介

【LAVENDER】

私たちLAVENDERは月に1回程の活動をしています。部員は28名でアロマクラフトとボランティア活動を行っています。アロマクラフトとは、エッセンシャルオイルなどを使って、日常生活で使えるアイテムを作ることです。具体的には、バスソルト、ハンドクリーム、ルームスプレーなどを作ります。どのアイテムも普段の生活を少し華やかにしてくれるので優雅な時を過ごすことができます。アロマクラフトの作成時は部員共々仲良くほのぼのとした雰囲気ですので、興味のある方はぜひ一緒にアロマクラフトをしてみませんか? また、ボランティア活動も行っています。アロマクラフトよりも頻度は低いですが、イベントのお手伝いなどを行っています。「ありがとう」「助かる」などのお言葉をいただけるのでとてもやりがいがあります。私たちと共にアロマクラフトやボランティア活動をしてみませんか?



【硬式テニスサークル】

私たち硬式テニスサークルは、現在毎週火曜日に活動しています。活動内容としては、ラリーなどの基礎練習からシングルスやダブルスの実戦形式など幅広く行っています。硬式テニスサークルの魅力としては、高校時代などにながっかりしていた経験者からまったくの未経験者までいろんな部員が在籍しているところです。なので、がっかり打ち合いたいという経験者にも、まずは基礎からという未経験者にもどちらにも優しく対応することが出来ます。さらに、他学科や他学年の先輩方との交流を楽しむことが出来て仲良くなれたら学生生活で役立つ情報を教えてもらえるかも!? 硬式テニスサークルは、テニスの楽しさを皆さんに伝えながら、忙しい学生生活のなかで、少しでもみんなで楽しくテニスができればと思っています。ぜひ、テニスサークルに1度来てみてください!

Library



図書館ホームページ <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library/>

○『私の部屋でランチを』『サイエンスカフェ』2024年5月～11月

『私の部屋でランチを』看護学科三輪教授、キャリア教育研修センター認知症看護分野の皆さん、助産別科生の皆さん、海外留学体験の学部生の皆さん、そして、『サイエンスカフェ』では、大学院の前田特任教授。貴重なお話と参加者とのディスカッションが行われました。

○学生図書委員企画『本の福袋』!

学生図書委員や教職員が選んだ本を中身がわからないよう包装し「生きるヒントが欲しかったら読む本」や「ことばで心を軽く」など選書者のメッセージを付け展示し、貸し出します。いつも読む本とは違う出会いと発見、さまざまな新しい体験ができる学生図書委員の企画として、夏と冬の長期休暇前に開催しました。

○卒業研究のための文献検索講義演習

学科専攻やグループ対象に開催しています。論文や情報検索の方法について、無料の検索エンジンではなく、図書館が契約している医学医療専門のデータベースを使い説明し、実際に文献を探し出す演習も行います。卒業・就職後も役立つ内容です。

○2月日曜祝日開館

国家試験勉強の応援として、通常の夜間開館と土曜開館に加え、日曜と祝日開館を実施。1日平均30人が利用しました。必勝ハチマキのホカボンシールも好評でした。



ホカボンシール

図書館蔵書の中から

— 図書館蔵書の中から 本学教員執筆図書のご紹介 —

『明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断—小児編』

大塚裕一編著 井崎基博著 診断と治療社 2024.11発行

【配架場所：教職員著作物コーナー(496.9)】



Column コラム「看護学科のDX (Digital Transformation) 化について」



看護学科
多久島 寛孝
学科長

看護学科では、令和5年度中途より学科の全体に関する会議(学科会議、臨地実習に関する会議)のペーパーレス化を導入しました。学内のintranet上の指定のフォルダ内に会議資料を転送し、それを各教員がコピーして、会議ではコピーした資料を各教員の端末で閲覧する方法をとっています。そして、会議終了後は、原則として会議資料を個人所有せず、削除することになっています。ただし、intranet上の指定フォルダ内に年度・月別に資料(議事録を含む)を残しており、各教員が指定フォルダにアクセスすれば随時確認できるようにしています。これは、資料を個人所有にすることによるデータ紛失などのリスクを防ぐことや紙・インク代の削減になるためです。

DX化については、会議のみならず授業への活用も課題と考えています。2019年に開始されたGIGA(Global and Innovation Gateway for All)スクール構想により、現在の大学生はICT環境が整備された場で学んでいます。学生の学びの支援のために、教員が授業研究を進めていくことはもちろんですが、デジタル学習をどのように進めていくかという点での取り組みも必要であると考えています。特に、現在の社会には欠かせないものであるスマートフォンの活用は多くの可能性を秘めていると思います。スマートフォンの活用への取り組みとして、現在、看護師国家試験対策のeラーニングによるデジタル学習を進めています。いつでもどこでも学習ができるための取り組みですが、時代の要請に応じてどのように学修支援を行っていくのか、常にそのあり方が問われていると考えています。

基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力をもつ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会について洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術をもつ人材を育てる

将来ビジョン

保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる

Vision 1

社会の変化に対応し、リーダーシップを発揮できる医療技術者の養成

ビジョン 1-1

教育改革の推進と学生ファーストの修学支援

ビジョン 1-2

独創的な研究の推進と大学院の充実

Vision 2

地域に根ざし、地域と共に歩み、社会の幸福実現に貢献

ビジョン 2-1

教育・研究組織の充実

ビジョン 2-2

魅力的な教育・研究環境の充実

Vision 3

10年後も20年後も選ばれ続けるためのブランド力の強化

ビジョン 3-1

学生・教職員の国際力の向上と海外の大学等との連携強化

ビジョン 3-2

教員と職員が協働する効率的・合理的な職場環境の構築

「熊保大夢基金」お礼とお願い

本学園では、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実を目的として、「学校法人銀杏学園 熊保大夢基金」への寄付をお願いしております。令和6年度前期におきまして8件45万円の御寄付を頂きました。この場を借りて心から御礼申し上げます。

感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名(令和6年度前期分、掲載御許可を頂いた方のみ、五十音順)

熊本バスケットボール(株)様 KMバイオロジクス様 重富直純様 高野真様 照屋隆志様 宮崎晋一様

頂いた御寄付は、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実へ活用させていただきます。引き続き基金の趣旨に御賛同頂きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

御寄付の申込方法は「インターネットによる方法」と「書面による方法」の2つがあります。詳細につきましては公式WEBサイト<https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/about/donation.html>を御覧頂くか、本学経理課までお問い合わせ下さい。

編集
後記

岩手県の山林火災により被害を受けられた方々に心からお見舞い申し上げます。

災害のニュースに触れると人と人、地域の結びつきについて考える機会になります。

育ててくれた地域への恩返しについて考えてみませんか。



熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において令和2年度大学機関別認証評価を受審し、令和3年3月16日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。

本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めて参ります。